



京都大学防災研究所
Disaster Prevention Research Institute
Kyoto University

一般研究集会

2025WS-01

分野融合を通じた沈み込み帯の
地震活動の理解と防災への貢献
Contribution on the disaster
prevention
and understanding of earthquake
activities
in subduction zones
through interdisciplinary
collaborations

令和 8 年 2 月

February, 2026

研究代表者 竹尾 明子

Coordinator Akiko Takeo

一般研究集会（課題番号：2025WS-01）

集会名：分野融合を通じた沈み込み帯の地震活動の理解と防災への貢献

主催者名：学術変革領域研究(A)「Slow-to-Fast 地震学」 ※共催の場合

研究代表者：竹尾明子

所属機関名：東京大学地震研究所

所内担当者名：西川友章

開催日：令和 7 年 9 月 24 日 ～ 26 日

開催場所：高知市文化プラザかるぼーと（高知県高知市）

参加者数：230 名（所外 223 名、所内 7 名）

研究及び教育への波及効果について

沈み込み帯で発生するスロー地震や通常の地震について、地震学・測地学・地質学・物理学分野など、様々な分野の研究者が集まり最新の知見を共有した。研究集会は海外から 52 名の参加があり、ポスターセッションやグループ討論などを通じて大学院生や若手研究者も英語で積極的にコミュニケーションを行った。また、前日のプレ巡検では通常の地質巡検によるメランジュ等の観察に加えて開催地の地域性を活かして津波避難タワーの見学を行い、防災に関する意見交換が行われた。同じく前日の若手研究者向けイベントでは若手研究者同士で研究紹介を行うなどの交流を行った。集会後のポスト巡検においても高圧変性岩を観察し、地震発生帯深部における流体活動について様々に意見を交換した。

研究集会報告

(1) 目的

学術変革領域研究 (A) 「Slow-to-Fast 地震学」と連携して、分野融合を通じた沈み込み帯の地震活動の理解と防災への貢献を目的とした、3 日間の合同研究集会を開催した。今年度は、高知県高知市高知文化プラザ「かるぼーと」にておいて、1) Theme Cutting-Edge Approaches、2) Theme Data-constrained numerical modeling、3) Theme Environment and generation processes の 3 つのスコープをフォーカスとして掲げた。

(2) 成果のまとめ

各スコープ 2 件の基調講演が合計 6 件行われたほか、20 件の通常の口頭発表と 171 件のポスター発表があった。本申請の目的である沈み込み帯の地震活動の理解と防災への貢献についても理解を深めることができた。199 名の現地参加者により活発な議論がなされ、31 名のオンライン聴講者があった。海外からも 52 名の参加があり、グループ討論では国内外の連携も含んだ今後の共同研究の方向性についても議論し、研究領域のさらなる拡大・深化に貢献した。集会前日に四万十帯の巡検と若手研究者向けイベント、集会翌日から三波川帯への巡検も実施した。

(3) プログラム

9 月 23 日 プレ巡検：四万十帯（津波避難タワー見学を含む）、若手研究者向けイベント

9 月 24 日 1 番目のスコープの口頭セッション、ポスターセッション、一般口頭セッション

9 月 25 日 2 番目のスコープの口頭セッション、ポスターセッション、一般口頭セッション

9 月 26 日 3 番目のスコープの口頭セッション、グループ討論

9月27日 ポスト巡検：三波川帯

(4) 研究成果の公表

詳細なプログラム・要旨はワークショップのウェブサイトで公開を行なっている。

日・英 <https://sites.google.com/view/slow2fast-earthquake-workshop/2025>

旅費を支援した参加者の報告書は主催者のウェブサイトで公開している。

日英混合 <https://slow-to-fast-eq.org/events/news/2670>